

基地の街に爆音「憤り」山口・岩国

米軍が艦載機訓練強行 住民、常態化を懸念



岩国基地で陸上離着陸訓練をする在日米海軍のF35Cステルス戦闘機=17日、山口県岩国市

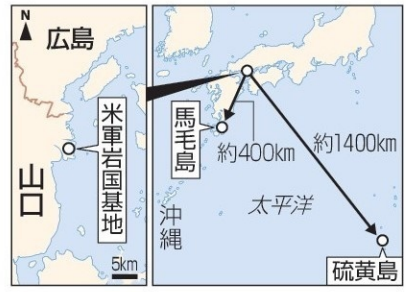
在日米海軍は岩国基地（山口県岩国市）で空母艦載機の陸上離着陸訓練（FCLP）を17日から始めた。地元は「容認できない」と反発したが、政府は「必要不可欠」と容認。米軍が強行、爆音が響いた。岩国での訓練は、これまで使って

きた小笠原諸島・硫黄島（東京都）の噴火に伴うので、火山活動は収まる心配がなく「今後も岩国での訓練が続くのではないかと常態化を懸念する声が出ている。訓練初日の17日、次々飛来した戦闘機は一瞬だけ滑走路に着地すると、すぐにエンジン出力を上げて離陸する「タッチ・アンド・ゴー」を繰り返した。市職員らが見守る数百人先の堤防まで、タイヤが焦げたような臭いが届く。数分おきの轟音は周囲の音をかき消し、地上に届く重低音が体を揺さぶった。爆音は夜も続いた。基地から約1キロで、防音工事が施された自宅に住む40代の女性は「家の中でも衝撃はすさまじい。子供がまだ小さく、雷のよう



岩国基地で陸上離着陸訓練をする在日米海軍のF/A18戦闘攻撃機=17日、山口県岩国市

な音を怖がり大変だ」と疲れた様子だった。FCLPはかつて厚木基地（神奈川県）で行われていたが、騒音問題が深刻化して硫黄島に移転し、年に1〜2回行われてきた。厚木、岩国と三沢、横田（東京都）の各基地が悪天候の予備施設に指定されていて、岩国での実施は2000年以来だ。山口県と岩国市は「激しい騒音をもたらす」と一貫してFCLPを容認しない立場だ。防衛省は今年12日、県と市に岩国での訓練開始を伝達。福田良彦市長は米側に中止を求めるよう中谷元防衛相に直接要請したが、中谷氏は実施は「やむを得ない」との認識を示した。基地との共存を掲げる福



田氏は、24年に岩国への米海軍輸送機CMV22オスプレイの国内初配備を容認するなど、防衛省と米軍の施策に理解を示してきた。だが今回は「大きな憤りを禁じ得ない」と強調。初日からたびたび通告時間外の訓練が確認されると「誠に遺憾」と怒りをにじませた。硫黄島では断続的に噴火が観測されている。政府はFCLPの拠点を移すため鹿児島県の馬毛島に滑走路を整備中だが、工事は遅れ、完成は早くとも30年3月末だ。岩国基地近くに住む60代女性は「米軍の希望次第で、いくらかでも訓練が続けられるのではないかと危機感を募らせる。大阪成蹊大の佐道明広特別招聘教授（防衛政策史）は「自衛隊と米軍の一体化が進むほど米軍の論理が優先され、地元への説明がおざなりになっている」と指摘。FCLPは日本の安全保障上も重要だと理解を示した上で「硫黄島が使えないならば一時的に米領での実施も真剣に考える必要がある」と述べた。